



今回再現した食事は全部で3膳21品。1膳目は織田信長の時代の大名料理を基

ベースは織田信長の料理献立

12月12日(火)、南島原市北有馬町の真蔵寺で、400年前の大名の食事と海外から渡来した南蛮料理を再現し、試食会が報道機関へ公開されました。

キリシタン文化の有識者を招いて試食会

フェスティビタスナタリス2006に併せ、日野江の城下町にセミナリヨが置かれていたころ、有馬晴信や宣教師たちがおいで食した当時の大名料理・南蛮料理21品が再現されました。有馬氏が海外交易を進め、西洋の文化を積極的に受け入れていた400年前の殿様料理の再現です。



有馬の殿様料理を試食

本にした10品。2膳目は西洋から渡来した南蛮料理8品。3膳目はデザート3品で構成。特に1膳目は、安土で織田信長が明智光秀に命じて徳川家康を供応した際の大名料理5膳32品の中から、当時のトップクラスの殿様料理をベースとし、当時の料理法により独特の掛け汁を合わせる刺身などで構成されました。



2膳目の南蛮料理



有馬晴信像

西洋との交流があった有馬では、1582年に日本で2番目に日本語とポルトガル語の辞書「日葡辞書」が製作されました。今回、再現した料理の素材は、すべて400年前に有馬で編み出された日葡辞書から抽出し、400年前の料理にこだわりました。素材選びと宣教師が伝えた当時の調理法調査は、5年間の歳月を要し、今回の再現にこぎつけました。

すべての素材は当時の日葡辞書から抽出



鎖国のため途絶えた幻の南蛮料理

400年前、有馬のセミナリヨが置かれヨーロッパをはじめとする海外との交流が盛んであった南島原市北有馬町には、海外の香辛料をふんだんに使った南蛮料理が存在していました。特に今回再現した南蛮料理は、クロープやシナモンなど海外の香辛料をふんだんに使っています。その後の鎖国により明治期までスパイスが入りやすくなったため、当時の日本人が食べたくても食べることができなかった幻の料理再現です。この内の1品(南蛮れうり牛肉入り炊き込み飯)は、16日のフェスティビタスナタリスでも作られ、参加された皆さんで試食し、400年前の味を楽しみました。

有馬の殿様料理お品書き

- 一 の 膳
●刺身(鯛、すずき、さざえ、こち、さわら、蛸) ●焼き物(さざえの殻焼き)
●汁物(すずき汁) ●なます(料理なます) ●飲み物(ポルトガルワイン)
- 二 の 膳
●南蛮料理(てんぷら、ですへいと、くしいと) ●焼き物(カレー味の鶏肉)
●汁物(鶏の汁) ●ご飯(南蛮れうり)
●漬物(南蛮の漬物)
●飲み物(南蛮の火の酒)
- デザート ●干し柿 ●ポーロ
茶 の 湯 ●抹茶 ●南蛮餅



フェスティビタス ナタリスのクリスマスツリーは、11月上旬に実行委員が高所作業車を駆使して、8,000個の電球を巨大ツリーに取り付けていきました。また、有馬小前の街路樹48本にも電飾。シンボルツリーに併せ約10,000個の街路樹の発光ダイオードが、イルミネーションの通りを形成しました。フェスティビタス ナタリスのイルミネーションは、冬の風物詩となり、セミナリヨの里を照らし続けました。

シンボルは日本最大規模のクリスマスツリー

織田信長が天下を統一しようとしていた1580年。イエズス会の中等教育機関「有馬のセミナリヨ」が日本で初めて南島原市北有馬町に創立されました。南島原市が持つ独特の史実を見つめ直し、日本のどの地域でもできないようなイベントを実施したいとの思いから、10回目のフェスティビタス ナタリスが開催されました。



西洋音楽再現は復元古楽器アルパを使用

400年前の西洋音楽をラテン語で再現

クリスマスイベントは、12月16日(土)に北有馬町有馬小学校グラウンドで開催されました。当日は、開始間



歌手杉山清貴さんが熱唱

近からの小雨という悪天候の中でしたが、約800人の皆さんの来場により、イベントがスタートしました。イベントは北有馬町内の児童・生徒で構成する聖歌隊「コルス・アンジェリクス」(当時のラテン語で天使の合唱団の意味)が、400年前の西洋音楽をラテン語で再現。また、画像と組み合わせた朗読劇では、復元古楽器でゴシックハーブ「アルパ」を使い、当時の音色を響かせました。

侍がいたころのクリスマス。400年前をイメージ

今回は新たに南蛮屏風に登場するポルトガル風の衣装を身にまとった実行委員が、来場者の皆さんを各ブースで歓迎。さらに400年前、宣教師が領民に振る舞ったとされる「南蛮れうり」が再現されました。当時の史実に基づき、今回は牛肉入りの南蛮れうりを再現。侍がいたころのクリスマス料理が振る舞われました。イベントの最後には、杉山清貴さんが、クリスマスソングやヒット曲を熱唱しました。どこまでも透るような澄んだ歌声は、クリスマス夜の夜にぴったり。ロマンティックな2006年のセミナリヨの里のクリスマスナイトでした。

有馬のセミナリヨ ARIMA SEMINARIYO

1580年、日野江城主有馬晴信はイエズス会の巡察師アレックスandro・バリニャーノの教育構想に協力し、日本初のイエズス会の中等教育機関「有馬のセミナリヨ」を日野江城下に開設しました。有馬のセミナリヨでは、ラテン語・ポルトガル語・日本語のほか音楽、美術、地理学など、当時の日本人が想像もつかなかったルネサンスの最先端の学問が導入されました。天正遣欧少年使節としてローマへ渡った4人の少年は有馬のセミナリヨの卒業生だったのです。平成16年には北有馬町がセミナリヨ跡地を北有馬町三尺町・本町一帯とし、記念碑を設置しています。

